

にれ はみ

2020年4月12日
聖日礼拝
ルカ24:1~12
「甦られた主イエス」
説教 渡邊貞雄 師



ご復活を祝うイースター。制限された中、み言葉に心を向けましょう。

I、復活信仰の困難性

ここは復活の主の出来事、その困難も多いことがわかります。婦人たちが墓に着いた時、墓の石の蓋（ふた）は動かされ（2）、途方に暮れました

（4）。また二人の人物が現れ、それを見た婦人たちは、怖くなり地面に顔を伏せてしまいました（5）。続いて大声が響いたのです（6）。人生は驚き悲しむ想定外が起こりますが、神様の側ではすべて想定内でありました。

II、復活信仰の重要性

パウロは「キリストの死と同じように復活とも同じように」（ローマ6:5）、「キリストとその復活の力を知り」「何とかして死者の復活に達したい」と語った（ピリピ3:10、11）。復活の力とは喧嘩や押しの強い者ではなく、聖霊に委ね忍耐や誘惑や弱さに勝つ美しい器となること。

III、復活信仰のヒント

①弟子たちは「彼女たちを信じなかった」。婦人は当時、社会から疎外され信用されず、「たわごと」（馬鹿げた話）と蔑視した（11）。復活信仰は人からでなく、神からの領きである。

②「生きている方を死人の中に捜す」間違い（5）。イエスを過去の歴史上の人としてでなく、「生きている方」の入口から捜さねばなりません。

③「思い出しなさい」（6、8）。何を？十字架につけられ、三日目に甦ると三度も約束された主イエスのお言葉（聖書）をです（7）。

十字架と復活の展開は表裏一体でセットで受け止めて、甦りの主と進もう。

